



ご挨拶

本日は、*A-Winds* 30 2010年 春の記念演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月、今から10年前、アンサンブルという少人数の音楽スタイルを、吹奏楽の大人数の編成において、そのアンサンブルの延長上にと位置づけて、1300年の歴史を刻む奈良の都に発足しました。同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催、以後、四季折々に開催する、我々*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして、記念すべき創立10周年と共に今日こうして、30回目の記念演奏会を迎えることができました。これも我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援あつてのことと団を代表しまして、心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論のこと、運営面も含む活動全般においても、団員一人ひとりが『主人公』ということと、吹奏楽のオリジナル作品を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも音楽表現の研究にと、作曲家の方々を実際に合奏練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙に取り組み活動を続けて参りました。

“鶴は千年、亀は万年”と言われるように、派手さは無いけれどもいつまでもコツコツと続けられるようにと、“亀”のイラストを団のロゴに取り入れ、いつまでも同じ仲間と共に、大好きな楽器演奏を通じて、良い音楽活動が続けられるように皆で願い、演奏会よりも何よりも先に、開催した「団の発足パーティー」はまるで昨日のここのように、演奏会と同じ数をごこなしてきた、パーティー好きなDNAも、コツコツと引き継がれています。

あつという間に時が経ち、今日はこれまで10年の間で活躍してくれたOB・OGも加わり“ALL *A-Winds*”にて、吉崎直之氏の渾身のタクトで演奏をお届けします。皆で奏でる音楽が、いつまでも皆様の心の中で、華やかな衣装とともに、鳴り響き続ける音楽でありますようお願いを込め、団員を代表して、一句詠ませていただきます。

演奏する 天使に変わる 舞台まで

今後とも、温かい御指導、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克



お知らせ

■ “*A-Winds* 33” 2010年 夏の演奏会

2010年6月19日(土) 14:00開演 やまと郡山城ホール大ホール

“*A-Winds* 33”では、副題を「吹奏楽の故郷より」といたしました。そしてプログラムは欧米各国の作曲家によるオリジナル作品を中心に構成しております。今日の吹奏楽の基礎を作った本場でもあるヨーロッパやアメリカの音楽をお楽しみ下さい。“*A-Winds* 33” 2010年 夏の演奏会 実行委員長 尾登勇介

■キャラクター名称募集

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラでは、演奏会のチラシやホームページで活躍しているイメージキャラクターの名称を募集しております。応募はパンフレットに挟んでありますアンケート用紙か団公式ホームページにアクセスしてください。なお、名称決定の発表は次回 “*A-Winds* 33” 2010年 夏の演奏会で行います。かわいらしくて親しみやすい名称を、奮ってご応募ください。

■団員募集

- 募集パート
 - ・トランペット [コルネット] / 1名
 - ・コントラ・バス / 2名
 - A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
 - ご自分で楽器を準備できる方
 - 全ての活動に賛同頂ける方
 - 18歳以上の方
 - 詳細はお問い合わせ下さい。
- 問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo

佐藤 由加里

Flute

佐藤 司
魚谷 陽子
古川 恵理
浅野 美音

Oboe

深沢 亮子
渡辺 美佳子

E♭ Clarinet & B♭ Clarinet

長尾 恭子
竹村 明恵
大江 奈々
森本 幸恵
後藤 咲妃
上野 彩香
八木 望
藤岡 宏樹
池田 知未
芳倉 宏文

Alto Clarinet

大西 晴己

Bass Clarinet

辻田 綾子

Bassoon

満江 孝文
萱原 美華子

Alto Saxophone

島田 博一
宮本 祐輔

Tenor Saxophone

初岡 和樹

Baritone Saxophone

吉村 由夫

第2部出演のOB/OG

Oboe

松本 絃子

B♭ Clarinet

松本 清香
石井 美保
吉崎 淳子

Bass Clarinet

佐藤 浩史

Alto Saxophone

伊藤 耕平

Tenor Saxophone

鹿野 麗子

Horn

久野 耕三
次田 哲平
小林 計昭
大田 雅美
山中 美咲

Trumpet

魚谷 昌克
表 恭子
篠木 章江
山本 洋介
竹腰 綾香

Trombone

萱原 淳嘉
小泉 文浩
鈴木 恵子
上野 遼太

Euphonium

大西 善郎
尾登 勇介
藤村 晃世

Tuba

楠 陽介
岸本 和
森 和夫

Percussion

平井 晶
谷口 麻子
久保 寛美
川本 理恵
吉村 昌子

Piano

八木 真木

Stage Manager

河津 雅之

Horn

佐伯 直人
村上 綾

Trumpet

大西 伸幸

St. Bass

栗岡 まさみ

Percussion

荒井 智子
河津 雅之
辻 歩



2010年3月22日(月・祝) 13:00開場 / 14:00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



プログラム

◇第1部

映像と演奏で振り返る10年

客演指揮者：魚谷昌克

吹奏楽のための第1組曲 変ホ長調 First Suite In E♭ for Military Band

1. シャコンヌ / Chaconne
2. インテルメッツォ / Intermezzo
3. マーチ / March

作曲：グスターヴ・ホルスト(1874-1934)／Gustav Holst

出版：Boosey & Hawkes

あの日聞いた歌

故郷～浜辺の歌～椰子の実～赤とんぼ～春の小川～花

編曲：真島俊夫

出版：プレーンミュージック

オリент急行

Orient Express

作曲：フィリップ・スパーク(1951-)／Philip Sparke

出版：Studio Music

◇第2部

支えてくれた人たちとの合同演奏

客演指揮者：吉崎直之

星条旗よ永遠なれ

The Stars and Stripes Forever

作曲：ジョン・フィリップ・スーザ(1854-1932)／John Philip Sousa

出版：John Church Company

アルメニアンダンス・パート I Armenian Dances Part 1

あんずの木 ～やまうずらの歌～ホイ、私のナザン～アラギラス～行

け、行け

作曲：アルフレッド・リード(1921-2005)／Alfred Reed

出版：Sam Fox

◇第3部

新たなる道を目指して

客演指揮者：吉崎直之

高度な技術への指標

A Guide to The Advanced Technique

作曲：河辺公一(1927-)／Koichi Kawabe

出版：全日本吹奏楽連盟

アルプスの詩

Poema Alpestre

霧～哀感～突然の光明～精神練成～高原の牧場～吹雪～神の国

作曲：フランコ・チェザリーニ(1961-)／Franco Cesarini

出版：Mitropa Music



プログラムノート

■吹奏楽のための第1組曲 変ホ長調

管楽合奏(吹奏楽)の歴史は大変古く、紀元前の古代ローマではすでに軍威の発揚のための軍楽隊が存在していました。その後、式典や祭儀のための音楽、そして宮廷音楽へと変遷を経て、19世紀中頃には現在とほぼ同様の編成になりました。この作品は1909年に作られたもので、吹奏楽のためのオリジナルな作品としては草分け的な存在といえます。全曲は3つの楽章によって構成されていますが、主要主題のほとんどは第1楽章冒頭の主題から導き出されており、それによって組曲全体の統一が図られています。

■オリент急行

1883年10月4日の夜、パリ・ストラスブール駅から6日間をかけてコンスタンティノーブル(現在のイスタンブール)に向かう豪華列車が運行を開始しました。その名を“オリент急行”といい、列車内の豪華な装飾、食器、一流シェフによる食事、一流スタッフのサービスなどはヨーロッパ社交界の話題を独占し多くの人々に愛され続けましたが、1977年5月に惜しまれつつ廃止となりました。

それから歳月が経ち、1982年5月にオリент急行はロンドンからヴェネツィアへの運行を始め、かつての栄光に満ちた姿を取り戻しました。

この作品は、このヨーロッパ大陸を横断する“オリент急行”の26時間の旅を描いたもので、ロンドン・ヴィクトリア駅の賑わいから始まり、出発進行。のどかな田園地帯を抜け、険しい山間部を越え、旅人はふと友人や恋人、家族に思いを馳せますが、列車は快調に走り続け、やがて終着駅のサンタ・ルーチア駅に滑り込んで行きます。

■星条旗よ永遠なれ

“マーチの王様”と称されているジョン・フィリップ・スーザは、1880～92年までアメリカ海兵隊軍楽隊の指揮者をつとめ、退役後はスーザ・バンドを創設して世界各地で公演し、大きな人気を博しました。並行して作曲活動も精力的にこなし、実に100曲以上のマーチを作曲しています。中でもこの作品はアメリカ合衆国を代表するあまりにも名高いマーチで、今日では国歌に次ぐ存在になっています。

■アルメニアンダンス・パート I

中央アジア西部に位置するアルメニア地方は、古くから東西南北の重要な交易ルートの合流地点にあり、複数の民族と宗教が混ざり合った独特の文化風土を持っています。

この作品の素材となっているのはこの地方の民謡や舞曲で、“あんずの木”、“やまうずらの歌”、ナザンという少女に対する若者の愛の歌“ホイ、私のナザン”、アラギラスという山を歌った“アラギラス”、そしてロシアのコサック・ダンスのように軽快な“行け、行け”の5曲で構成されています。

また、出版の都合により分けられた『パートⅡ』とともに全曲演奏されることもあります。

■高度な技術への指標

1940年に初めて開催された全日本吹奏楽コンクールは、途中13年の中断を経て今年で58回目になります。この作品は第22回大会(1974年)の課題曲で、初めての本格的なポップス調の課題曲になります。曲名からすると堅苦しい練習曲のような印象を受けますが、聴いて驚くことなかれ、華々しいファンファーレで始まり、ブルース、ビギン、スウィングなど様々なタイプの音楽が繰り広げられ、クライマックスには熱狂的なサンノまで現れ、その派手さはステージ・レビュー音楽そのものです。

■アルプスの詩

ヨーロッパを東西に横断するアルプス山脈は、ユングフラウやマッターホルンなど4000メートル級の山々が連なり、“ヨーロッパの屋根”といわれています。そしてアルプスを源とする幾つもの川は、ヨーロッパ各国の境を形成しながら流れていきます。そのためアルプスは、地理的にも歴史的にもヨーロッパの重要拠点といえます。

この作品は1999年、ドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウスの50回忌にあたって彼の名声に敬意を表し、代表作「アルプス交響曲」を意識して書かれた壮大な交響詩で、連続して演奏される7つの部分からなります。

フランコ・チェザリーニは雄大なこの山脈に見下ろされるスイスのベリンツォーナの出身で、それ故に彼の人生にはアルプスの心と精神が刻まれているといえます。山脈の精神とは、山を題材とした作品を数多く書いているアメリカの作曲家アラン・ホヴァネスによって、『肉体と精神とが混ざり合った場所である』と述べられています。この言葉は曲を創作するにあたって常に関わってくる、“現実と物体・非現実と精神の混在”を言い表しています。そして7つの部分のタイトルのいくつかは、ドイツの小説家トーマス・マン著のスイスの結核療養所を舞台とした小説「マジック・マウンテン(魔の山)」から引用しています。このようにチェザリーニは、アルプス山脈の情景を音楽で描写しながら、彼なりの人生論を展開しています。



プロフィール

客演指揮者：吉崎直之

京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立音楽高等学校)、京都市立芸術大学音楽学部卒業。トランペットを八木茂夫、北村源三、藏野雅彦、有馬純昭の各氏に、指揮法を伊吹新一に師事。大学在学中から、フリーランス奏者として活動。京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇場管弦楽団、等に客演。ヤマハ契約インストラクター。全日本学校音楽研究会講師。奈良県立高円高等学校音楽科トランペット、合奏講師。京都市教育委員会吹奏楽特別非常勤講師。檀原交響楽団、王寺ジュニアバンド・ハルモ、生駒台ジュニアブラスバンド、奈良育英小学校、奈良市立吐山小学校、大和高田市立片塩小学校、葛城市立當麻小学校、葛城市立白鳳中学校、山添村立山添中学校、香芝市立香芝中学校、香芝市立香芝西中学校、奈良市立登美ヶ丘北中学校、奈良市立奈良県立高円高等学校、平城高等学校、檀原高等学校、奈良工業高等専門学校、京都市立紫野高等学校、白頭学院建国中・高等学校、同志社香里中・高等学校の各バンドを指導。平成18、20年度文化庁派遣講師。天理音楽院講師。